

日本民家園だより

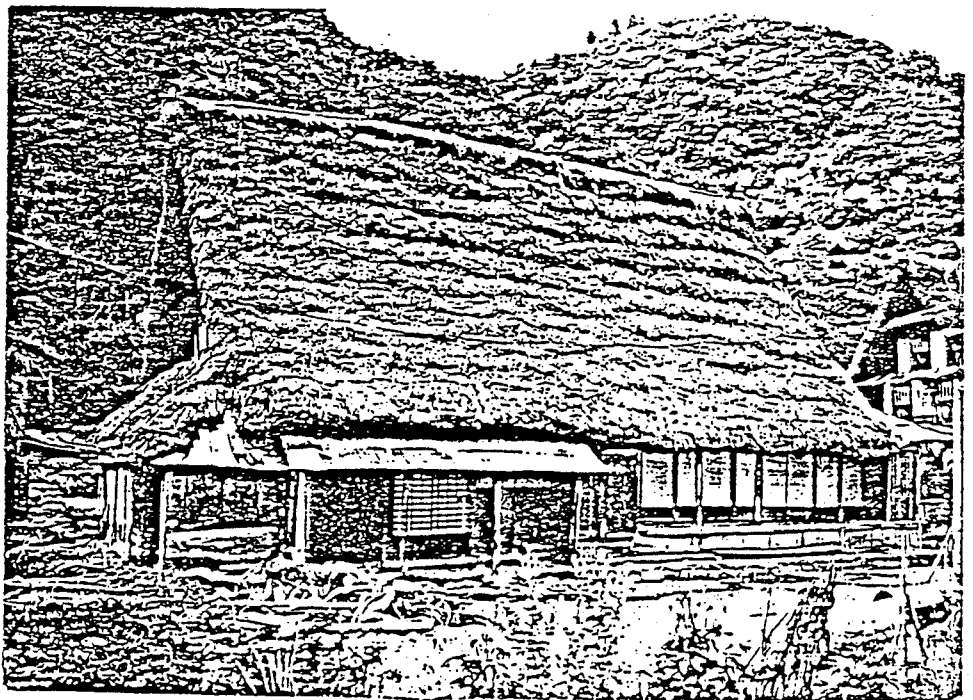
完成が待たれる 旧山田家復原

今を去る17年前、秘境越中五箇山から1軒の家が姿を消しました。ダム工事のため5軒あつた桂葉落も現在は全くその姿をとどめていませんが、場所を移して民家園内の旧江向・旧野原・旧山下各家の間にその姿を再びあらわそうとしているのがこの写真(移築前)の旧山田家です。"日本民家園だより"第1号でお知らせしたような概要の古民家ですが、これにあるとおり富山にありながら岐阜の特色ももつている古民家で、4つ揃えば比較研究・学習など野外博物館の本領を発揮する格好のものとなることでしょう。

移築前は写真のように左右側面に庇をつけた入母屋造り風の一般的な越中形合掌造りでしたが、復原調査により後世の改造箇所が判明して、左右の庇や正面のトタン張り下量・

縁側などもなくなり、切妻・平入りの飛騨形合掌造りのような古民家となります。工事は旧三澤家横に取替材の木造り・古材の補修などの作業場区域、組立ての建設区域と2個所に分けて進行中ですが、来年4月には完成し公開する予定となつておりますので御期待ください。

なお、建設工事区域はネット・フェンス張りで施工中ですので、珍しい木部組立てや茅葺根葺き(来年1月下旬より約1ヶ月の予定)の状況もつぶさにご覧いただけます。



旧山田家住宅・移築前

第2回民家園協議会が10月23日、旧山下家学習室で開かれました。

冒頭、園側より20年に亘る古民家等の移築・復原の状況、園が行っている博物館活動や運営管理及び安全対策について説明後、これをうけて園内を視察し、その後委員からご意見・ご感想を聞きました。主なものを挙げますと

△ 防災体制について

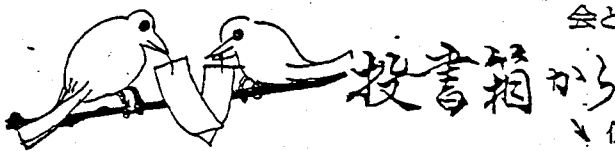
古民家の集落施設として、20年の“ふしめ”を迎え、数百年以上に亘り後世に残していく責務上、この際抜本的かつ体系的な防災対策を講ずる必要がある。

△ 環境整備について

園路等は、現在の来園者のための観覧動線の他に、環境管理のためのいわゆる管理動線を区別することが野外博物館においては、検討課題となってくる。

△ 民俗資料の保存について

鉄類を使用した民具の錆止めについて最近改良された良い防錆材もで



入園者から寄せられたご意見・ご感想の中からいくつかをご紹介します。

◎家の中が暗いですね、床上にあがれないのが残念です。

◎民具がありました、昔どのように「園からのコメント」

●暗い所はスポット、あんどん等で随処を明るくしています。●古民家・民具の説明効果を高める方法は、今後検討します。●古民家等の復原増設は地元保存、敷地面でむずかしい状況です。●各家の観覧は、文化財のため現行の方法ですすめますのでご理解ください。

きたので今後可能な限り活用した方が良いと思う。

△ 学校教育との連携について

教師のために、古い時代の生き方や生活そのものについて、専門的な案内書による研修などを行い、生徒への十分な指導ができるようにしてはどうか

△ ボランティアの育成について

「昔のくらしを考える会」等の講座開設（市民館との連携）が考えられるが、園には「良い素材」が沢山あると思う。地域グループ「文化財友の会」でも何名かの関心ある人の協力も考えられる。

△ 今後に向けて

「民家園を何のために作ったのか」という当初の思想を十分に考慮し、フィールドミュージアムとしての園の使命をいかに生かすべきかを常に模索していくことが肝要なこととなろう。

以上、協議の一部ですが、委員の熱心な発言に多くの課題が示され、大きく羽ばたこうとする民家園が浮き彫りされ閉会となりました。

↓使われていたのでしょうか。

◎ガイドまたは説明テープが聞けるようにして欲しい。

◎当時の人物（人形）を置くと、昔の生活がよくわかると思う。

◎中国・九州・四国の民家も集めては..

お正月を迎えるための **民具** 各種シメナワ・オミキのクチについて

シメナワの由来

お正月が近づくと、どこの家でも神棚にシメ縄をはり、玄関に玉飾りをつけてお正月を迎える準備をします。シメ縄は本来、神聖な場所を示す境の目印でした。各家庭でも大庭日には一年間の邪悪を払い、新しい年が汚れのない良い一年である事を祈つたのですが、今ではお正月の装飾の様な感じになりましたが、本来は神聖な祈年行事であつたのです。

シメナワ(注連縄)のいろいろ

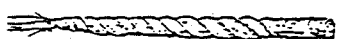
①ナワジメ

最も古い形を残しているシメナワです。神社の拝設や鳥居に張つてあるもので、祭礼の時、商店街などにも張られる事があります。タレとシメは、^{ハツ}汚れを祓うもので、この下を道る事によつて、清らかな身になれるというものです。



②ゴボウジメ

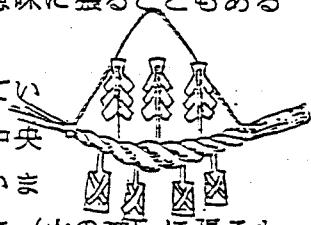
形が野菜の牛蒡に似ていることから呼び名がついたのでしょう。



神棚の前に張り、シメをつけます。元を向つて右の方にするのが一般的ですが、先を家の奥に向けて、富や幸福が家に入るように、という意味に張ることもある

③ダイコンジメ

ゴボウジメと似ていますが、こちらは中央が最も太くなっています。これは荒神さま(火の神)に張るもので、かまどの煙のゆくところへ図の様に縄で吊ります。荒神ジメともいい、豆船の形にする地方もあります。



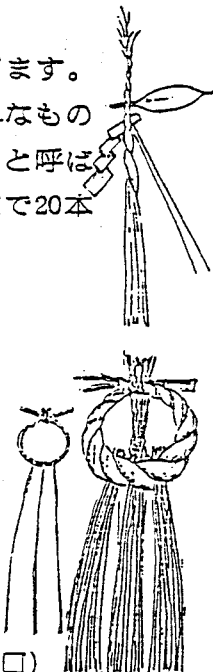
④イチモンジメ(一文飾り)

前に紹介したものに比べ、簡単な飾りのもので、家の各出入口や、物置、馬小

屋、便所などにも吊りさげます。ワラの先だけ縄にした簡単なものという意味から「一文飾」と呼ばれたのでしよう。一軒の家で20本位つくる家もあります。

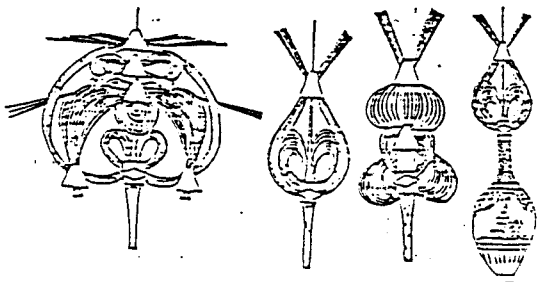
⑤タマカザリ(玉飾り)

これは玄関に飾るもので最も一般的で、基本的には「ナワジメ」を丸く輪にし縁起物をつけたものと考えればよいでしょう。これを簡略化したものが門松に掛ける「ワカザリ」です。



⑥オミキのクチ(御神酒の口)

神棚へ神酒を供える徳利の口へさすもので、竹・紙・木・金属などで作られるものがありますが、これは竹を細く裂いてつくるもので、種々の形があります。原始的と思われるものには、白紙を巻いてさすものや、神の小枝を用いる事もあり、地域的に特色の多い信仰民具です。



フク シンナシ 神棚に掛える
キボ シブクジュウ

